

第27回未来医療セミナー

腫瘍内低酸素がん細胞の イメージング・ターゲティング

京都大学医学研究科

21世紀COEプログラム

「病態解明を目指す基礎医学研究拠点」

放射線腫瘍学・画像応用治療学

COE助教授

近藤 科江 先生

《要旨》

この研究を始めてから、「特定の疾患に付随する病的環境を標的にする」という意味の『環境標的』という言葉をつくった。『分子標的』の様に、特定の分子を標的とする創薬研究ではなく、特定の環境で作用する治療薬・診断薬を開発する研究である。化合物を使うと、絶対的な条件(絶対温度、絶対酸素濃度等)で作用条件が規定されてしまうが、タンパク質の機能を利用すると生体応答を利用することが可能になる。

我々は、様々な酸素濃度で機能している各組織細胞の酸素センサーにより調整されている HIF-1 活性に注目し、それを利用した低酸素細胞のイメージング・ターゲティングを行っている。今回は、低酸素がん細胞のイメージング・ターゲティング研究について紹介したい。

日 時 : 2007年1月31日(水) 18:00より

場 所 : 大阪大学医学部附属病院外来棟4階 第1カンファレンス室

連絡先 : 未来医療交流会(大阪大学医学部附属病院未来医療センター内)

Tel: 06-6879-6557/6552, Fax: 06-6879-6538

E-mail: koryukai@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp

協 賛 : 21世紀COE「細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成」

-Center for Integrated Cell and Tissue Regulation-